



第四十四回入学式式辞

平成 31 年度 4 月 8 日

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。399名の皆さんの入学を心から歓迎いたします。また、今日のよき日に同窓会長の岡様をはじめ、このように多数ご来賓の皆様のご臨席のもと、ここに第44回入学式を執り行うことができますことを心よりお礼申し上げます。

そして、今日まで新入生を様々な面で支えてこられた保護者の皆様にも心からお祝い申し上げます。本校の職員一同、皆様の期待にこたえられるよう全力を尽くす所存でございます。

さて、皆さんはただいまから本校の生徒です。本日の初心を忘れることなく、自己の目標に向かって、惜しみない努力を積み重ねられ、これから本校で過ごされる一日、一日が充実したものでありますようお願い申し上げます。

俳人、高浜虚子の句に、「春風（はるかぜ） や 闘志抱きて 丘に立つ」という句があります。皆さんの今の心境をよくあらわしていると思います。これから始まる高校生活への期待と不安、そしてまた、喜びと緊張で胸が高鳴っていることでしょう。

皆さんは義務教育を修えて、さらに自分から進んで勉強したい、教養を深めたいということで本校に入学してきました。人は、生涯





にわたって学習しますが、少なくとも学習は自らの意思で行うものです。今日皆さんが本校に入学したのは、自らの意思で進学を決意し、自らの選択で本校を選んだものと理解しています。この覚悟と意欲が、高校進学に際してはもっとも肝心なことなのです。今日の入学式は皆さんが自ら学び、自ら成長を願う決意を確認する場であり、またあります。これからの高校三年間に何を学び、何を行うかの目標はすでに皆さん一人ひとりの胸の中にあると思います。その達成のために大いに頑張ってもらいたいものです。

皆さんの入学に際して望みたいのは、本校で「良き師、良き友を見つけてください。」

書道家の相田みつおさんの「その時の出会いが 人生を根底から変えることがある 良き出会いを」という作品があります。高校時代は生涯の友を発見する絶好の機会でもあります。

どうか、さまざまな機会を通し、生涯の良き師、良き友と巡り合っていていただきたいと思います。清風を起こす竹の枝は、必ず節から出ています。高校への入学は大きな節目の一つ、その節目こそ、新しい枝を出すチャンスです。

皆さんの今後の大いなる活躍を期待するとともに、充実した青春時代を送られることを心から祈念して式辞とします。

